

進学先

大阪大学 基礎工学部

貝尻 遼さん

桐蔭高校(桐蔭中学)
科学部 部長

志望校を決めたのはいつ頃ですか。

貝尻: 大阪大学の基礎工学と思ったのは、高3の春ぐらい。高1・高2の時は東大や東工大も考えていました。学校で一番上のクラス行きたかったから、志望校を書く時は東大や京大と書いて。でも何もわかっていない状態でとりあえず書いていました。東大理一よりも理三の方が難しいのかも全く分かってなくて、東工大も名前がかっこいいくらいで。本当にそのレベル。で、真面目に考えたら阪大でした。もともと、とりあえず工学部と思っていたんですけど、調べたら基礎工学ってあるんだって知ったっていう流れで。推薦を考え出したのもたぶん春ぐらいです。高2の冬に受けた模試で化学がまさかの2点だったんです(笑)。それで心が折れて、これは一年間でどうやっても無理だなって。で、どうにかして二次試験を回避したいなっていうことで推薦を考えて。もともとは工学部の総合型選抜で考えてたんですけど、最終基礎工学で決めました。推薦を考えたのは、阪大に行けるチャンスを増やしたかったっていうのが大きいです。

大学でやりたいことは？

貝尻: 推薦の志望理由書にも書いた医療ロボットの勉強は、本当にやりたいです。もともと車の開発とかをやりたいんですけど。でも、推薦が無理で二次ってなったら阪大は無理かもって思ったタイミングで他の大学を調べていた時に、神戸大学の医療創成工学科(神戸大学医学部医療創成工学科:2025年4月新設。医学と工学を融合し、

国産手術支援ロボットなど次世代医療機器の現場開発・社会実装を主導する専門人材を育成する学科)のことを知って。そこで医療ロボットのことを知って「うわ、ここに行きたい!」と思って。でも阪大を目指したいっていう気持ちもあるから阪大で同じようなことをやってないか調べたら基礎工学部にあって。阪大だし、やりたいこともできるし最高やんって思って。神大のことを見るまでは全然医療ロボットとか興味なかったんです。もともとモノづくりは好き。で、社会に役立つことをしたい。でも、いろんな人の目に触れることのない産業用ロボットとかは嫌。多くの人の目に触れるようなものがないかと思っていて、医療系のロボットっていう選択肢あるんだって知って、興味を持ち始めて。気づいたら「うわ、めっちゃええやん」みたいな感じで。中でも、手術を全自動でやる自律型の医療ロボットとか、かっこいいなって。ミスが許されないから、かっこいい。医療過疎とかの問題解消っていうのもあるけど、メインの理由はかっこいいから。「かっこいいからやりたい」が、全部メイン。何でも。勉強もできたらかっこいいからやったし。学校でも一番上のクラスがかっこいいから行きたかったし。手術支援ロボットも、できたらかっこいいし。



モノづくりやロボットに興味を持ったのはいつ頃？

貝尻: 小学生の頃に。月一回モノづくりをする習い事みたいなのをやらせてもらっていたんです。何でもやらせてくれる家だったから。いろいろやらせてもらった中で、モノづくりは普通に「楽しいな」っていうくらいだったんです。その頃は。で、小4の時にロボカップの全国大会が和歌山であって、それを家族で見に行ったら「あ、すげえ、かっこいい」って。その時に、桐蔭中高の科学部がロボット体験ブースみたいなのを開いてたんです。それに参加したら、おもしろい!って。で、その頃はサッカーもしてたんですけど、一緒にサッカーをしている同じ小学校の一個上の先輩がその体験ブースにたまたまいて。その科学部がやっているロボット教室に、一緒に入るうってなって。応募して、無事行けて、その人と一年間チーム組んで。そういうことをしている中で、中学校は桐蔭中に行きたいっていうのも決まってきました。もともと中学受験はするつもりでGES(小学生部:県立中学受験専門クラス)にも入っていたけど桐蔭か向陽かは全然決めてなかったし、どちらかという中学校にサッカー部のある向陽寄りだったんですけど。でも、桐蔭の科学部も良くなって。で、最終、桐蔭の科学部でロボサッカーしよう決めました。いろんなきっかけが重なって、決まってきた感じです。桐蔭の科学部のロボット教室は小4から小6までやりました。で、自分が桐蔭中に入ることができて、科学部に入って「今度は俺が教える側」と思ってたら、コロナ禍で。自分が中学の間は口

ロボット教室ができなかったんです。で、高1・高2で、無事できるって言われた時に「じゃあやらせてください」って言って。それで、今度は自分が子どもたちに教える側としてやりました。一年間。同じ科学部の寺田(桐蔭高校,東京大学理科一類合格,AcademyCampus生)と2人でカリキュラム組んだり、親御さんにメールしたりとか。全部自分たちでやらせてもらえた。本当にいい経験になりました。

科学部での他の活動も教えてください。

貝尻: 桐蔭の科学部は、もともと缶サットが強くて。でも僕はロボットがやりたかったから缶サットは一年間だけ。ロボカップは、6回か7回出させてもらったかな。全国大会は全部行けたんです。で、一番良くて全国4位。3位までが世界大会に行けたから、本当にあと少しだったんですけど。2年連続4位で。高1の時の4位は、3位のチームと同点で。そのチームが世界大会に行ったら世界3位で。これは自分たちも来年は行けるぞと思ってたら、次も4位。で、また3位までが世界大会に行けて。悔しさが半端じゃなかったです。

Academy Campusのことについて教えてください。

貝尻: 高1は、ハイレベル数学(ACクラスライブ授業)とハイレベル英語(ACクラスライブ授業)。あとは論理国語(代ゼミサテライン講座)と速読聴英語。県庁前校で受けた久保田先生のハイレベル英語は、毎週ターゲット(英単語ターゲット/旺文社)のテストがあったんですけど、高1の時は全然その勉強をやってなくて。だから、今思えばやっておけばよかったなって後悔してます。でも、授業ではどんどん新しい文法を知ることができるし、難しい問題も出してくれるし。もともと英語が苦手だったからアカデミーの授業である程度基礎力がついたのはめっちゃよかったです。ハイレベル数学はターミナル校で。とにかくめっちゃ分かりやすかった。緊張感もあったし、分かりやすいし、宿題もあったから。僕は高校受験をしていない分、中学で勉強する習慣がきちんとできてなくて。高1でアカデミーでハイ英・ハイ数を受けて勉強するようになってきたから、塾に行っておいてよかったなって思います。



高2も県庁前で久保田先生のハイ英と、ハイ数がターミナルの芳樹先生(青石先生)。あと、長沼先生の国語。

ハイレベル数学は、高1の時よりもさらに緊張感があってよかったです。あと、高2の冬でも数IIIも終わるくらいの速さで。学校の授業だと数IIIが終わるのがけっこう遅いから、アカデミーのハイレベル数学のおかげで、高3の夏に数IIIの演習をできたのは大きかったです。塾で先に理解して学校の授業でもう一回理解したらもう完璧だったんです。僕の場合、この二段階じゃないとたぶん無理だった。学校の授業だけでも無理だったし、塾の授業だけでも無理だったかもしれないです。数学は特に。それに芳樹先生がめっちゃめっちゃ好きやったから。本音で話してくれるというか、変に取り繕わずに隠さずにズバズバ言ってくれるから。あと、板書がめっちゃ綺麗。立体とかめっちゃ綺麗でびっくりしました。グラフとかも丁寧に書いてくれてすごい分かりやすいから、嬉しかった。数IIIとかだと、わけの分からない立体とかが出てくるけど、そういうのを描いてくれて。イメージしやすくなって楽になるから嬉しかったです。

サテライン(代ゼミサテライン講座)は、高2の夏ごろから化学。秋ぐらいから数学、物理、英語を受けました。

中でも荻野先生の数学(荻野暢也 講師(天空へのハイレベル理系数学))はめっちゃめっちゃよかった。数学の基礎はできてる自信はあったけど、二次試験の問題を見てみたらチンプンカンプンで。解く時の思考ができてない、手順を踏むとか考え方がそもそもわかってないんだと気づいて。荻野先生の数学は二次試験を解くための考え方を教えてくれる。基礎でもないけど入試の数学をばんばん解いていくぞみたいな感じでもなく、ちょうどいい感じのレベル。基礎はできているけどこの考え方には至らないっていう部分を補ってくれる。あと、計算を速くする裏技とかも教えてくれて。解き方をパターン化してくれたのもめっちゃめっちゃよかった。この問題が出たらこのチョイス、これが使えなかったらこっちのチョイスみたいなやり方を教えてもらいました。それが自分の中でも分類されて体系化されるっていうのはすごいよかったです。

亀田先生の化学(亀田和久 講師(標準化学))は、高2の夏から受けてはいたけど初めはあまりやる気が出なくて。模試で化学の点数が悪くて、さすがにまずいと思ったタイミングでちゃんと始めました。化学は知らないと解けない問題が多いけど、そういう問題を扱ってくれる。基礎の基礎から始めて、入試に出るようなテーマも扱ってくれる。あと、授業の途中に日常生活の化学も話してくれるから、化学を楽しくさせてくれたのがすごいよかった。色も分けてやってくれるし。清書はめっちゃめっちゃ時間はかかるけど、その分、めっちゃくちゃ頭に入る。今でもすっごい頭に残っています。

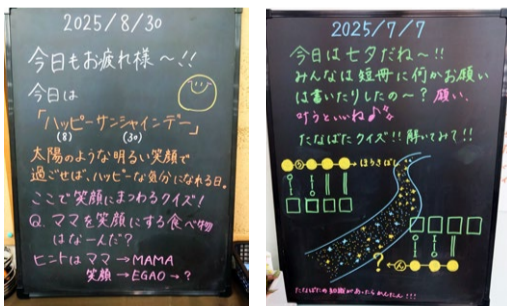


あと、岡先生は、参考書のこととかすごい知っているし、スケジュールも決めてくれて。参考書も全然分からなかったから、岡先生に最初に「物理と化学の参考書どれ買ったらいいですか」って聞いて。教えてもらった重要問題集(数研出版)はもう、めっちゃやりました。物理も2周したし、化学なら3周。問題によっては4周。ネットで調べたら参考書のいろんな情報はあっても、岡先生はどれをやったらいいということにプラスして道を作ってくれる。本当に大学受験のこと、何にも分かってなかったんで。ここまでにはこれやっておけとかスケジュールも決めてくれて助かりました。





あと、アカデミーでよかったのは自習室。高2の冬あたりから来始めて。高3の4月からは毎日のように来てました。部活があった時は部活の後に、自習室が22時まで開いてる日はもう絶対こっで決めていました。他の予定で20時にしか行けない日でも2時間だけでも自習のために来て。高2でサテラインを受けるために1Fに来た時に、自習室でたくさんの高3生が勉強してるのを見て「うわ、かっこいいなー」と思って。高3になったらみんなここで自習するのが当たり前なんだなって。その時の高3生の姿がめっちゃめっちゃかっこよかったんです。だから、自分も高3になったら絶対ここで自習をやると思って。実際、集中できました。家では勉強しないから勉強するなら絶対塾でって決めて。絶対22時までいました。なんか早めに帰ったら負けた気して。何にかは分からないけど(笑)。たまに用事で早く帰るときは、みんなに負けた気がしてました。あと、学校帰りに友達と一緒に来たっていうのも大きいかも。22時までいて「あー疲れたー」って言いながら友達と帰るのもわりと楽しかったのもあるかもしれないです。そうやって周りの友だちとあんまり悲壮感なく受験勉強できたのが良かったかな。息抜きできるスペースもあるし。チューターさんが毎日書いてくれているちょっとしたクイズも好きで。僕は全然答えられない人だったんですけど(笑)。クイズは得意なのに全然分からなかったんです。友だちが「俺は分かった！」とか煽ってくるけど、自分は分からなくて。だいたい考えこんだりして。あれは楽しかった(笑)。



後輩たちにアドバイスをお願いします。

貝尻: ターゲット(英単語)はやっておくべき。これは本当に。マジで太字で書いておいてほしいぐらい。僕はちゃんとやってなかったから高3の冬、本当に直前期まで単語をやって。すごい悲しかった。だせーとか思いながら。単語力がないと何も読めない。始まらない。だから絶対にやっておくべき。あと、化学も最初からちょくちょく手をつけておいた方がいい。テーマが多いから覚えることも多いし。他は、大学別とかの本番形式の模試は、自分で調べて受けておくといいと思う。共通模試は学校でも受ける回数が増えるけど、二次試験の本番形式の模試は限られた回数しかないから、できる時にやっておくべき。自信にもつながるし。



インタビューを終えて

今年の受験生たちは本当によく勉強する学年で、自習室は常に熱気と活気にあふれていました。そのAC自習室の雰囲気をつくってくれていたのが、貝尻君だったように思います。彼の周りには自然と人が集まり、本人にそのつもりがなくても「みんなで頑張ろう」「みんなで合格しよう」という空気を発信してくれていました。そして、貝尻君がみんなを引っ張っていったのは、間違いなく彼自身が誰よりも勉強していたからでしょう。

また、頑張るときは全力で頑張り、休むときはみんなで楽しく過ごすというメリハリもあり、周囲の生徒が悲壮感なく前向きに受験生活を送る手助けをしてきていたように思います。本当に、人としてとても魅力のある生徒でした。



対談の中で感じたのは、誰かに言われたことを素直に受け止め、吸収できる力です。彼の言葉の端々から、その素直さと吸収力を強く感じました。素晴らしい個性だと思います。

医療ロボットの開発は、これからの社会に欠かせない技術です。大学でも社会に出てからも、自分の思う「かっこいい」を追求し、持ち前の明るさと人間力を発揮して、素晴らしい開発者になってくれることを願っています。これからも頑張ってください。合格おめでとう！

ACターミナル校カウンセリングスタッフ 岡 哲司